

年中児保育案

ほし組 男児17名 女児18名 計35名
担任 武田 あさ子 鳩宿 恵理香

1 幼児の実態

子どもたちは、4月から新入園児と進級児と一緒に過ごし、環境の変化に戸惑いながらも少しずつ慣れ、現在は友達の顔や名前を覚え、互いに呼び合い、同じ場で遊ぶ姿が見られる。これまで、遠足や運動会などを通して、友達と助け合ったり、力を合わせたりする経験から、最近では、鬼ごっこやボール遊びなど、友達と一緒に協力して遊びを楽しむ姿も見られるようになってきた。まだ必要な言葉が言えなかったり、思いがうまく伝わらなかったりして、いざこざが起こることもあるが、その都度、子ども同士で話をしたり、教師が必要な言葉を知らせたり、互いの思いを代弁したりして、相手の思いに気付くことができるような言葉掛けを行っている。

園庭では、鬼ごっこや氷鬼、かくれんぼ、だるまさんがころんだをして、鬼を決めるためにどうしたらいいか友達や教師と一緒に話をしながら遊びを進めている。途中で友達が変わったときに誰が仲間なのか分からなくなったり、細かなルールを確認していないためにいざこざになったりすることもあるが、友達や教師と話をしながらみんなで楽しく遊ぶためにはどうしたらいいのか考えながら遊んでいる。また、虫捕りをしたり、「ゆうびんやさん」を歌いながら長縄をしたり、年長児と一緒にリレーごっこをしたりする姿も見られる。

室内では、この時期ならではの落ち葉や枝、木の実などを使ってアクセサリーをつくったり、花紙を使ってジュースをつくったり、役になりきって家族ごっこをしたりして遊んでいる。つくったものでお店屋さんごっこをしたり、自分なりに楽器をつくり、音楽をかけてダンスをしたりして遊ぶ姿も見られる。道具の貸し借りや互いのイメージのずれによっていざこざもあるが、友達や教師の考えに触れ、自分の気持ちに折り合いを付けながら遊びを進めている。

このように、友達と一緒に遊んで楽しむ姿が見られる。いざこざがありながらも、話をしながら自分の思いを知ってもらったり、相手の気持ちに気付いたりすることで、互いの思いを調整しながら実現させたい遊びのイメージを共有し、遊びを進めている子どもたちである。

2 遊びの価値とねらい

子どもたちは、友達と一緒に遊びを進める楽しさを味わい、友達とのかかわりを広げ、深めながら自分の思いを知ってもらったり相手の気持ちに気付いたりして遊びを進めている。そこで、友達とのかかわりを広げ、深める中で、互いの思いを実現しようと自分の気持ちを調整する姿を大事にしたい。

鬼ごっこでは、友達を誘ったり友達に誘われたりしながら、「先生、ぼく鬼になりたい」「先生、仲間に入れて」など、教師に問いかけるのではなく、子ども同士で思いを伝え合うことができるように配慮することで、友達と一緒に遊んで楽しむ楽しさを味わうことができるだろう。様々な友達や先生と一緒にルールを確かめながら遊びを進め、深まりゆく秋の中で体を動かすことの心地よさを感じることで遊べる遊びとして大切にしたい。

ごっこ遊びでは、友達と同じ遊びに興味を抱き仲間に加わることを楽しみ、友達と一緒にイメージを共有しながら、自分の思いを知ってもらったり、相手の気持ちに気付いたりすることの大事さを感じることもできるだろう。また、お店に来るお客さんのために様々な準備をしておこうと友達同士で協力し合うことで遊べる遊びとしても大切にしたい。

こうした遊びは、身近な環境に興味をもち、感じたことを自分なりの方法で表現し、自分の思いを調整しながら、友達と協力して遊びを工夫する姿につながると思う。

3 この期の保育について

(1) ねらい

- 気の合う友達とかかわり合って楽しく遊ぶ。
- 秋や初冬の自然に興味をもち、自分の好きな遊びの中に取り入れる。

(2) 内容

- 気の合う友達と一緒に遊んだり、自分なりに考えたり、試したりしながら好きな遊びを存分に楽しむ。
- 落ち葉や木の実など自然物を使って、いろいろな遊びを楽しむ。
- 友達とイメージを伝え合いながら、遊ぼうとする。
- 野菜の収穫や世話を通して、いろいろな食材に興味・関心をもつ。

4 本日の保育について

(1) ねらい

- 鬼ごっこやお店屋さんごっこなど、イメージを共有しながら友達とかかわり合って楽しく遊ぶ。
- この時期ならではの落ち葉や木の実などに興味を抱き、遊びに取り入れようとする。

(2) 内容

- 自分の思いを知ってもらったり、相手の気持ちに気付いたりすることで、友達との遊びを楽しむ。
- 友達とイメージを伝え合いながら、互いに自分の気持ちを調整しながら遊ぼうとする。
- 自然物を使って自分の好きな遊びに取り入れて、いろいろな遊びを楽しむ。
- 飼育舎の動物やチューリップ、野菜の世話を通して、動物や植物に興味・関心をもつ。

(3) 保育に当たって

ア 人とのかかわり

- 友達同士でやりとりを楽しむことができるように、子ども同士をつなぐことのできるような言葉掛けを行う。
- 互いの思いを知らせたり、相手の思いに気付くことができるような援助をしたりして心掛ける。
- 降園活動では、友達がどんな遊びをしていたのか知ることができるように全体に知らせる時間を設ける。

イ ものとのかかわり

- 子どもたちが、イメージするものを自分たちで作り出していけるような材料を十分に準備しておく。
- 固定遊具やままごと道具などを使った遊びを通して、互いにルールを理解して遊ぶ楽しさが味わえるように、みんなで話ながら遊びを進めるようにする。
- 初めての遊びにも挑戦しようとする姿を見守りながら必要に応じて補助をしたり、言葉を掛けたりしていく。

ウ 自然とのかかわり

- 秋ならではの心地よさを感じながら葉が色付き、葉が自然と落ちる様子と一緒に驚いたり、遊びに取り入れたりしながら、自然の不思議さを共に感じるようにする。
- 花や野菜の成長に気付き、開花や収穫を楽しみにできるような言葉掛けを行い、自然への関心を高めていく。
- 生き物に興味をもつ姿を受け止め、餌をあげたり、探したりする姿を大切にしながら、生命の大切さについても機会をとらえて触れていく。